

カルル・ユリウス・ペロツホ (完)

高田春彦

ピタゴラスが其學説を發見して、神にヘカトーム(牛百頭の犠牲)を捧げて以來、ある新しい眞理が發見される。と、總ての牛が總ての人に之を知せる爲に喰つたといふことである。この際も實に彼等は之をやつた。總ての方面からして反抗が昂まつた。實際何人も辯駁を試みとせず、この書を默殺せんとしたが、之は何等の効果がなかつた。既に十年後にゼークは私の結果が「將に宗法たらんとする」と言はねばならなくなり、加へて、この不淨を除かんが爲に、私を攻撃した(コンラッド年鑑第三篇第十三號第一六二頁にて)やゝ後れて、ニツセンもそのイタリヤ地理學(第二卷第九頁にて)に於て之を試みた。私は彼等が辯駁の興味を失ふ如き方法で之に答へた。上記のコンラッド年鑑第三二一頁及びクリオ第三卷第四七一頁にて)私は四十年後の今日は、當然此書を全然書き換へねばならず、私がレーミツシ・ムゼウム第五十四卷第四一四頁に載せたガリヤの人口論及びギリシャ史第三卷の二の第二章、第三六頁に書いたアツチカの關する論文と比較して、更に非常に確實に叙述されるべきものであるが、私は根本に於ては、當時到達した結果を委然正當なるものとして支持するのであり、只その個々の點を改善すればよいと思ふてゐる。

其間に私の經歷は停滯して來た。當時イタリアに行はれた大學令によれば、ナポリを除き、其大小に拘らず、他の大學は正教授十人以上を置く可らざる規定であつて、ローマでは當然この數が充されて居つた。只非常に優秀な學者のみは、この數に拘らず任命されるを得たが、これが規定は當然非常に困難であつた。其後之が變つて來た。紀元一八八六年カタニヤに哲學の大學が設けられて、古代史の教授席が競争に附されたので、私は之に仲間入することに決心した。當時確實に勝利を得るが如き多少有名な候補者はなかつたが、然しその委員の中にはチュニス人のユダヤ人でベルリンのアカデミーから通信教授に任命されて居つたヤコブ・ルムプロゾといふのが有つた。この人の唯一の大作はラギート朝治下のエヂプトの財政といふ者で、勿論バリで薦賞されたものではあるが、一般にかゝる賞與論文は非常に平凡なものであるから、このものが重用されたのは、寧ろ甚だ不思議である。この者が私を落第させ様と考へた。その理由についてはこゝに説明せずに置くこととする。恰もこの時に現れた私の「人口論」がキーベルト及びフォルビーゲルによつて剽竊されたらしいが、他の委員等は之を見て之で十分であると認めて、私に其位置を與へた。當然私は彼處で埋没するのは不愉快であつたので、この位置を拒絶したが、其後二三年後に私はローマで正教授となつた。

私は私の昇級が停滯した時に私の教授力を輕視した。三千五百フランの爲に何の無駄骨折をするのか。私は實に常に多くの他の人よりは多くのことをやつてゐたと信ずる。遂に私はフラスカチに行きローマ及び全カムパニヤを瞰下し、スラクテキ及びミニの森より海を眺める古い宮殿に居を卜めた。然し私はこの時のことを考へると、今でも氣持が悪くなる。彼處で私は愛すべき友詩人リハルド・フォツスを得、またローマに於けるよりも科學的研究の

時を得たが、この際半ば學生との接觸を失つてしまつた。かくて私は遂にローマに歸つたが、其後正教授となつたので、私の教師としての成功初つた譯である。私は幸にも多數の優秀な學生を發見するを得た。ウインセンゾ・コンスタンチは勿論既に老學生の一人であつたが、今はビザの古代史の教授をして居り、ゲータノ・デ・プレスキアは今アレキザンドリヤのギリシャローマ博物館の館長をして居り、ルイヂ・バレンチは今フロレンツの古代史の教授であり、デオルヂオ・バスカリは同じくフロレンツの古典言語學の教授である。既に學校經歷の終にあり、或は其近くにあるコムバレッツ、ウイテリ及びバイスの如き人々を除けば、此等の人は今日イタリアが有する古代學の大家である。彼等は總て私と眞實の友人としてつゞいてゐる。更に考古學者のペルニール、バリベニ及び其他無數の人々は、まだ大學に入らず、或は大博物館の館長たるに至らない。イタリアに於ける多少有名な市には私の學生の居らない所はない。大多數の中には自然私に眞實を保つてくれない人もある。かくてトリスト生れのユダヤ人サロモノ・モルブルゴは私の最も古い學生、私の講師たりし時の學生の一人であつたが、私が紀元一九一九年夏、即ち平和締結後フロレンツに行つた時に、彼はその管理してゐる國立圖書館に彼の古い教師の入ることを禁じて更に恥とせなかつた。私は戦争の間ローマに於ける總ての圖書館に公然入ることを許されて居たのであるが、彼は總てのドイツ人が圖書館訪問を禁ずる訓令を嚴格に實行した譯である。

私は當時(一八九一年)私の學生が其研究論文を公にするに便にし、且つ之を廣い範圍に知らしむる爲に、古代史研究(スツヂ・ヂ・ストリア・アンチカ)を創め、其後(一九〇〇年)更に古代地理學の教授を囑託された時に、その目的に役立ち、同時にイタリアの歴史地理學の礎石たるが爲に、歴史地理學研究(ビブリオテカー・ヂ・ジオグラフィ

ア・ストリカ)を設けた。

私が古い地理書を讀んだ時代は私の教授力の高點であつた。進歩した學生の仲間があつて、この際總ての科學的の要具を提出した。假令彼等は試験の仲間ではなかつたけれども、切りに私を訪問して呉れた。自然、私はイタリアの總ての部分で自分が觀察して知つてゐたものを、最も多く讀書した。總てが史料から研究されねばならないのであるから、非常に時を要した。勿論私の依頼し得る如き教科書はなかつた。實際ニツセンのイタリア地理學は主要問題、即ち地誌を放棄して居つた。當時私はゼミナールの練習を含めて毎週七時間宛讀書したが、私の仲間のハルプヘルがクレタの發掘に出かけた爲に(ギリシャ誌文學の代理をした時などは更に十時間に及んだ。)この外にも此頃は職務上の義務で非常に忙しかつた。私は毎年卒業試験の委員として地方に出かけ、また二年間サルヂニヤの高等學校視學の長であつた。私は實際之を拒むことも出來たのであるが、之が爲に今迄閉ぢられてゐた幾多の門戸が開かれて、私は常に豊かな、科學的の獲物を齎らすを得た。私はなほ常に古代イタリアを書きたいものと希望してゐたが、戦争が總てを終らしめ、今では時を失した。かゝる私の歴史地理的作業は感謝されないものであるが、恐く之も宣しからう。

私が私の「人口論」を終つた時に、私に長く私の心に動いて居つた問題に進み得ると信じた。吾人はこの時に至るまで、ドイツには貝クルチウスのギリシャ史があつただけで、之が數版を重ねたが、吾人の時代がかゝる作物に期待してゐる要求には甚だふさはしくなかつた。この時現れた二つの作物の中でブソルトの歴史はまづく排列された材料集に外ならず、ホルムのそれは全然價值の少ないもので、老スセミルが私に言ふた如くに確かに「拙作」であ

る。私は長い間その史料に親んで居り、また教壇でその總ての範圍を取扱つた。而してペリクレスからアレキザンダーに至る時代は私の「アツチカ政策」の豫備作業であつた。二つの書はギリシヤ史がローマ史と縫合する點までに至る筈である。これならば私は二三年で完了し得ると信じた。

私がそれに屬するものから、かゝる歴史を書くといふ豫感を有つてゐたならば、其時はあつたと思ふ。私は一度ならず原稿をストーブに投じて終ふといふ考になつたが、之は間違なく正當であつたと思ふ。實に爾來ギリシヤ史は最善の力を用ひたものであり、また恐らく私が永久に筆を握れなくなるまで之を爲しつゞけるに相違ない。私は今迄全然放棄するをゆるされない、然も多分は最早之を完了せしむるを得ない他の仕事の爲に時を取つて居つた。然し草叢の中に穀粒を採することは決して私のすべきことではなかつた。私が一度最早先進するを欲せずして數ヶ月仕事を中止した時に、ギリシヤに行つたが、私は彼處で新しい刺激と新しい勇氣とを得た。私は其時、其後全部で六回彼地に行つた。これらの旅行で、多島海の周圍の殆んど總ての範圍を廻つた。之は私の生活中の最美しい記憶である。私にはアクロポリスのあの夕ば忘れられない、バルノンの柱が没して行く太陽の光で輝いた光景は今迄見たことがない景色であり、恰も太陽が私に告別の挨拶をして居るものゝ如くに思はれた。之は紀元一九〇九年の七月であつた。私は今一度彼處に立て見たい氣持がする。かくて第一巻の原稿を送り得るまでには七年かゝつた。私はもつと留めて置けばよかつたと思つたが、之を其以上に仕上ることが不可能であつた。第二巻の仕事を更に迅速にすゝめ、之が二年で終つた、之で只アレキザンダー時代までに至つた。かくて第三巻に取かゝらねばならなかつ

たが、一と先づ之で十分であつた。結局私はまた或他のものを企てねばならなかつた。私は一時古代に飽きたのである。

この書は吾人が學校で教へ込まれてゐる様な月並なギリシヤ史の型を破毀した。前史からして紀念物、或は叙詩の證據により、或は推論によつて證明するを得ざる如き總てのものを放棄した。ペルシヤ戰前時代の歴史を單一なるものに總合したが、之は實に漸く第二版に於て完成された。紀元前五世紀については非常な仕事はして居るが、紀元前四世紀の歴史は全然新しく作り上げられた。ケイロニヤ戰がギリシヤの終末に非ずして、其高點となつた。今迄取扱はれなかつた經濟史にその適當な位地を與へられ、精神生活の歴史に於ては文學及び科學と並んで科學が前景に立つた。科學はギリシヤ人の爲したものの中で最高のものなるが故である。私はペリクレス、ソクラテス、プラトン及びデモステネスに對する判定によつて、幾多彼等に對する非常に神聖な感情をそねたと思ふ。この際記述は出来るだけ簡略にしたから、全卷に不用な詞は一切ない筈である。

當然また人口論の場合よりも一層聲高く牛は唸り出した。ベネデクトゥス・ニーセはこの書についても何等美點を認めず、また假令ば私の仲間であるナボリのホルムの如く小さい吠犬の群がしきりに騒ぎ立てたが、私はこんなことには馴れて終つた。然しあの第一巻などは、まだ不完全であつたに拘らず、既に當時最良なる人の中に私に對する贊美の聲がないでもなかつた。この者は賣れ、また讀まれた。而して爾來クルチウスは再び出版されない。

然し私は特に人口史を忘られなかつた。私が古代のみに限らずして、中古及び文藝復興をも研究せねばならないといふことは、以前から明かなことであつた。而して之が研究は古代史正當に理解する爲にも必要であつた。然し

これが材料は先づ古文書文庫から発見されねばならないので、之が爲に私は紀元一八八四年ナポリに行き、この仕事に取かゝつたが、この仕事は私の能ふ限り、今日まで繼續して居り、半はこの目的の爲に全歐洲を旅行し、私の足はイスバニヤよりスカンデナビヤに及んだ。實際、此等の範圍に於て其目的を達するには全く深い探索を要する。假令ばフランクフルトに關する書籍の如き、個々の市の特殊論文はかゝる個々の市についてすら全く役に立たない。其結果は他の多數の結果と比較して試験されない限りは常に假定に終るものである。當時ドイツに行はれた如き方法も確實な材料に乏しい中古に入ると全く間違つてゐる。吾人は寧ろ文藝復興を以て初め、そこから中古に溯るべきである。ことに一般に中古的として考へられてゐる數字、假令ば有名な紀元一四四九年のニュルンベルグの數字の如きは眞實に文藝復興に屬し、中古が紀元一五〇〇年に終り。文藝復興が分裂するといふ吾人の世界史的時期區分は全然逆である。當然最も多數の材料が発見される筈であり、而して何人もまた蒐集してゐないイタリアに於て最豊富な收穫があり、こゝでは私は手を延しさへすれば十分であつた。既に四年の後には、この地の十六世紀の總人口を精密に定むる得るに至つたか、之は殆んど政府の數字を土臺としたものである。只モデナ侯國はこの時代から全然報告が出で來ないので、近地の人口密度及び十八世紀の人口密度を土臺として、計算によつて指示した。其後二十年後にモデナ及びレッツォの古文書文庫に働く機會を得た時に、官廳の數字を處理することが出來たのであるが、之によると私の計算が殆んど精密に適中して居つた。私はかゝることになつて何物も理解しないで、之を語らんとする言語學者が、この方法が古代にとつて正當でないといふて異議を申立てゝゐるといふことを述べて置く。

私は當時のイタリア統計局長官ルイヂ・ボチオの希望で、當時紀元十六―十八世紀のイタリア人口史上最重要な

數字で當時私の集め得た限りを國際統計雜誌(ブレッツチン。デ。リンスチチュート。インターナショナル。デ。スタチスチーク)(Ann. 1888, 5, 1 ff.)に排列した。その時代のイタリアの歴史は實際多數に書かれてゐるが、何人もかゝる根本的に重要な事柄を考へて居らないのが特色である。ブルツクハルトもかの非常に賞讃されたイタリア文藝復興文化史に於て全くこの點を注意せずにて通り過ぎてゐる。

私は次の年には今迄よりも更に多くを蒐集すべき筈であつたが、私は只休暇だけを古文書文庫の旅行に用ひて居つたのであるから、イースターの休暇はイタリアでは非常に短いし、また常に休暇をもらうことも出來ず、それでギリシャに旅行をした。夏の休暇はまた少くとも大部分は靜養に捧げねばならないので、大抵チロールに行つた。私は決して登山狂ではないが、氷界の莊嚴な美觀は私に取り反抗し得ざる誘惑であり、かくて私はこの地の總ての最高の山に登つたもので、オルテルル及びケーニヒスビッツエよりクロツクネルまでを征服した。實に若い時代には生命は決して終るものでないと思つてゐるものである。

私は今一時ギリシャ史を終つた時に、人口史をもつと深く研究せんと考へた。私にはベネチヤ共和國に關する材料は殆んど完全に集つて居つた。私は當時その重要なものをば、コンラット年鑑(第三卷第十八號、紀元一八九九年)に公にした。私はこの頃、ユリウス・ウオルフの社會學雜誌(第二號及び三號、紀元一八九九年)に古代より紀元十七世紀末に至る歐洲人口史の概觀を載せた。之はこの種の最初の試みで、其後イナマが國家學の教科書に只斷片を掲げてゐる。然しこの試はこの雜誌が餘り多く出て居らない爲に注意を引くに至らなかつた。そのイタリア譯は、紀元一九〇八年にシーナの經濟文庫(ピブリオテーカ。デル。エコノミスタ)に出てゐる。外部の事情は今私

をば先づ人口史を後にして再びギリシヤに轉せしむるに至つた。

かくて私は私が希望したよりも早くギリシヤ史の第三卷「ギリシヤの世界統治」を書いた。既にこの題目は計畫であつて、二年位で完了すると考へたのであるが、然るにこの時代の歴史は非常に多くの問題があつて、その簡単な注意だけですて置くことが出来ず、また其記述の爲には一巻、或は半巻を増加する研究が必要となつた。この時期にドロイゼン、また私の少し前のニーセ(一八九三—一八九九)が取扱つてゐるのであるが、何れも單に政治歴史のみでない、私のはその外にこの時まで何人も試みて居らない精神史及び經濟史を十分に考へた。而して政治史にも半ば全然新しい面目を與へた。ドロイゼンは傳説の缺陷を充すが爲に、彼の空想を逞うして居り、この點では古代史の他のものより偉大であるが同時にまた傳説をも放棄してするが。ニーセは概して年代記以上のものを與へて居らない。私は之に反して先きの二卷に於ける如く、傳説と矛盾せざる記述を與へた。第二部はことにこの時代完全な年代表と政治地理を含むが、私は此等のものを根底から築き上げなければならなかつた。

遂に五年の後に、この書を公にするを得たが(一九〇四年)この度は完全な成功であつた。批判は除外例なく一致して居り、吠犬も最早敢て現れることをしなかつた。

今私は人口史に復歸すべき自由を得たと信じた。然し人間は考へ、チーへの神は導く。私がかの書を完成すると間もなく、ブルツク・ハルツングからして、彼の世界史の爲にギリシヤ史を受持つ様にといふ注文が來た。私は是非辭退をしたかつたのであるが、この好意を拒むことを欲しなかつた。且つかゝる通俗的な世界史は私の科學的作物に比すれば非常に多數の讀者を有すること、また從て廣い範圍に影響すべき最良の機會を有することは明白であつ

た。また私は第一卷の出版以來クレタが併吞されたのでギリシヤの前史が非常に變化して來たから、かの卷に間違つてゐた多くの點を更に正しく記述するを得るのであつた。かくて之を承諾したが十ヶ月の作業を要した。而して私が之を終り、一息つかうと考へた時に、ストラスブルクの私の出版人から書狀が來て、ギリシヤ史の第一卷が賣切れたから、再版を心配して欲しいとのことであつた。

かくて私はまた束縛された、然かも他の卷も漸次に賣切れるに相違なかつたから、何時まで束縛されるのか判らない。而して新版は少くとも第一卷だけは全然改定を要した。かくてこの卷は二卷に分たねばならないほどに分量が多くなり、それに其後をれれ補充の卷が追加されたことは第三卷の場合と同じであつた。かくて今迄の第一卷が四巻、或は寧ろ四つの「半巻」からなつた。クレタの地も今一度訪問することが必要になつた。之は發掘報告では明白な姿を得ることが出来なかつたからである。私はかくて當時私の昔の學生なるベルニールの指導の下にフェストスを發掘してゐたイタリヤ考古學會の委員に加らんとしたが、大臣が認可を與へてくれないので、私は夏の非常な炎熱の際に行かねばならなくなつたが、クレタはアテネに比すれば大分氣樂であつた。私が十分研究を必要としたヘラクレオンの博物館に於てすら長く止ることが出来ず、ヘエストスでは熱の爲に深い天幕の中に眠り、毎日二回發掘に出かけた。私はこの機會にヘエストスの直ぐ後に立つてゐるイダ山に登つた。イギリス考古學會のクノスに於ける委員は私を非常に歓迎してくれたので、この旅行は私の愉快な追懷となつてゐる。

而して今遂にドイツからの招聘が來た。私はローマで幸福に感じ、満足な仕事をして居り、またピンチオ及びボルゲツセのすぐ近くに美しい別荘を有つてゐるが、然かも従前から母國に活動することが私の希望であつた。私は

現に二回申込を受けた。一つは紀元一八八五年にライプツヒの員外教授としてゐたが、ゼミナールを保有すべき筈で、勿論非常に満足なものであつた。また一つは紀元一八八九年にプレスラウの正教授としてゐた。然し二回ともに不成功に終つた。之は當時ライプツヒにはクルト・ワックスムートが招聘され、この人が言語學と古代史を代表することになつた爲であるか、彼には全然古代史の智識がなかつた。またプレスラウではモムゼンが反對であつたからである。然らざれば私は必然行つたに相違ない。此等の大學は少くとも人物を得んとしたのであらうが、正しく立派な言語學者ではあるが、如何にしても歴史家とは考へられない人々を採用したのである。私は實際何處にでも住むことは出来るのであるし、また度々誰か馬から驢馬に乗り換へるものがあるかと考へて居つた。それにも拘らずドイツ學生が読み得べき爲に、ノルデンの要求によつて彼及びゲルツケの出版した「古代學階梯」にアレキサンダー以來のギリシャ史とローマ共和國の歴史とを書いた。最後に私が略六十歳になつた時、ライプツヒに於て彼等は私がまた生きて居るだらうことを思起したのである。私よりは寧ろシホリウスを招くがよいといふ老リプシウスの如き二三の言語學者があり、彼の爲に特別投票が行はれたが、然し之は既に十分遅かつた。私は既にドイツに對する考を棄て、居つたのであるが、當然之を拒むことも出来なかつた。私は紀元一九一二年のイースター日に私の職に就任すべきものと思つてゐたが、三月初に任命辭令を得たので、如何に急いでもローマから立つことが出来なかつた。それで漸く秋になつてライプツヒに行つた。私は私の就任演説として人口史の問題「歴史的發展の要素及び尺度としての人口數」(史家雜誌—ヒストリツシエ。ツァイトシリフト第三編第十五卷第三二二頁)を撰んだ。私はこゝに非常に廣い活動範圍を得たが、私の仲間は非常に私に親切であつた。殊に二人の有名な教授

ブントとラムブレヒトと親しくなつたが、今悲しいことには二人共に歿した。私の前任者なるウイルケンかゼミナールをよく整理してくれた。私は之が低下しない様にして行くことを希望してゐるのである。私は私の助手エルテル(今はグラツの教授)によつて立派な共力者を得た。其外に私が實際變更を希望した多くのものがあつた。かくて教授仲間が燕尾服を着して晚餐を共にする如きはその一である。私は實にジャケットを着て大臣の處へ行くといふ民主的な土地から此處に來たのである。而して當然私にはローマの太陽、藝術の實、カムパニヤがないのである。

悲しいかな、全く生れながらの南地人であり、また常に南方に生活して來た私の妻は氣候に耐えられず冬病氣勝であつた。而して私は長い間には彼女の健康を葬られねばならない氣候の影響を永久に彼女より分つ責任は取り得ない。かくて私は非常に重い心を以て夏休暇の終に私の教授職が公式に保留されてゐたローマに歸ることに決心した。私は實際近き將來に何か來るべきかを豫見するを得たが、然しそれにも拘らず私は平氣で居つた。

また一年も過ぎない間に戦争が初つた。面倒な形式を省略して、私にイタリヤ市民權を與ふことが内閣の問題になつた。私はこの危急の際に母國を棄るを得ざることを答へた。當然この結果として職業も、財産もなくなるに至るべきであつたが、私は更に躊躇しなかつた。何人も私に感謝しなかつたが、私もそれを期待しなかつた。

事件が段々進んで行つた。ローマに於けるドイツ及びオーストリアの公使は全然無能で、輿論を動かす何事をも爲さなかつた。之はフランク公使バレールが最善く了解してゐた點であつた。ドイツの資金で建てられた新聞ラ・ビットリヤは編輯が非常にまづいので、何人も讀むことを欲しなかつた。私すらもさしたる仕事は出来ない。讀者

の多い新聞にドイツに友情ある事項をかゝることが出来ず、また外のことを書くのは目的はづれである。私がデオルナール・ヂタリヤに書いた事項の一つが當時ドイツ新聞にも轉載された。私は宣戦後の動搖した日も學校の閉鎖されるまでは、大學で靜かに書物を讀みつゝけた。私の學生は私に固着して居り、何人も私を防禦する如きことをしなかつた。私は其後大臣の許に往つて、私はどうすればいいのかを尋ねた。大臣の答は、靜かに汝の試験を舉行して、其後レギアトラに行けとのことであつた。私はなほ十月第二學期のことを心配して居り、再び講議を初めんとした時に、私の講義が中止された。然し私の俸給はつゞいて支拂はれた。

私が獨身であつたならばドイツに行つたかも知れないが、そこでは私の妻は生活し得られない。私は彼女を好遇して呉れる様な親戚を有しない。私の俸給はいづれは停止されるであらうが、私の自分の財産で暫らくは十分であると思ふ。私が將校であつたならば當然兵役に徵發されべきであつたが、かの時代兵役に取られなかつたのでそれには成り得ない。かく私はそのまゝ、自分の位置に歸つた。

ローマでは私をよく知つてくれた多數の人があり、更に不快はなかつた彼等が一度私の門戸に「デデスキー（イタリア語にて輕蔑的に用ふるドイツ人の義）に死」と書いてあつたが之は全くのいたづらであつた。只數年間の家に居つたイギリス人の借家人のみは除外例である。我等はこの時までには親しかつたが、今は最早我等をどうでもよくなり、奉公口を求め、何等功果なきに拘らず、吾人に對して隣人を煽動などしたが、隣地に居つたフランス人にも度々之をやつた。官吏は非常に謹慎であり、それで私は毎週警察に報告する義務を免れて、今迄の通りに生活するを得た。私の友人は登錄される恐怖からして、非常に稀に私を訪問してくれた。而して議會に於て社會黨の議員

なるテ・フェリセ・ヂウフリダはカタナの市長をしてゐた時に其行政によつて名聲を作つたものであるが、紀元一九

七年三月九日に私に對して火の如き演説をしたのであるが、それは何にもならず、誰も眞面目に受取らなかつた。

然し私はドイツから完全に隔離された。手紙も、新聞も、書物も來なくなつた。私は郵便でベルネ・ルブントを豫約したが、その卷數が非常に不規則に送られた。イタリア、フランス及びイギリスの新聞ではドイツの報告は沈黙し、殊に戰利品の數が曖昧にされた。私は之を半ばイスパニヤの新聞から知るを得た。主要問題については、私はリビウスの報告の批判に應用した如き方法を敵の報告に批判に用ひて、事件の姿を作つたが、其後之が確實なりしことを知つた。かくしてこの方法は正當である。

かくして私には只科學的研究のみが残された。私は從來の如くに公立の圖書館及び博物館に入つたが最重要な圖書館、即ちドイツ考古學會の圖書館は當然閉鎖した。私はこの時旅行せずしてなし得られる限り、私の人口史の材料の研究及び私の生き居る間は爲さねばならない古代ギリシャ史の大作に用ひた。私は果してこれがいつまで可能なるべきやは判らなかつた。

私はこの年は全然平穩なるを得たが、之は大部分は文部大臣ルツニヒに感謝せねばならない。然し私は實際は常に明日は來るだらうと思はれる不確實の中に生活をした。初めは之が刺戟的であつたが、やがて之に馴れた。而して私はあれほどに非常に無能な皇帝がなかつたならば、實際確實であつたと思はれる終局の勝利を疑はなかつた。然るに復活祭前の金曜日（カルフライトツハ）が來た時に狀勢が一變した。イタリアに滯留して居るドイツ人が幽閉され、ドイツ人の財産は監督官の手に置かれた。大學總長トネリは科學的には零であつたが、共濟組合

員で、當時イタリアに於ける極端主戦黨の詞を借るれば、狂暴(イドロフォボ)であつたが、彼が何等かゝる權利を有せざるに拘らず、勝手に私の俸給を停止した。後に私をヘルレル及びベンニツヒで支拂ふといふことであつたが、其間いかにして家族を養ふべきかに當惑した。其後私は幽閉されることになり、正しく復活日であつたが、コセンザ、ベネベント及びアキラの中何れを選ぶべからずか私が要求された。之は私には非常な不快であつたので抗議をし、少くとも大學市を滞在地にたらしむることを希望した。かくて私はシーナに送られた。當時、私はオビットのトリスチャヤ、エクス・ポントを十分に學んだ。殊に私は私の欲する如くに生活するを得た。然し私は今自由ではなかつたので、この市は私には爾來嫌なものになつた。

然しこれは單なる序幕であつた。私はローマを去ると共に私の大學教授の職が免ぜられた。之は私ドイツ人であるといふ以外に何等批難されることはないのであるから、非常な權利侵害である。之を認める爲に特別な法律的効力を有する勅令(デクレト・レッツゲ)が發布されたが、之は全く私のみに適用さるべきものであつた。現にローマの考古學の教授オーストリアのユダヤ人レヴィーは戦争の初に非常に驚いて遁出し、爲に其職を失ひ、他のドイツ、或はオーストリア教授は最早イタリアには居らなかつた。當然かゝる場合の常として私的關係も働いたに相違なく、喜んで私の講演に列した人も可なりあつた爲であらう。勿論私に今金を與へずにして置く筈であつた。之を私から奪つた所で更に批難を受けないからである。最後には私の家、私の書庫を監督官の手に置くに至つた。今私は全く無一文になつた。

然しこれまで來ない中に、私は非常な打撃に遭遇した。私の妻はローマに止て居たのであるが、當時流行してゐ

た流行性感冒にかゝり、紀元一九一八年四月二日に私に別れたのである。私は初に悪い報知を得ると、電報で歸還の許可を得、また少くとも最後の週間も彼女の際に止り得ることを承認された。其後私はまた追放地に歸つたが、今私には萬事どうでもよくなつた。私の家庭は永久に寂寥となつた。

而して其後秋には會て行はれた最有名な戦の後の最も見にくい破綻が生じた。然し私の幽閉は今も廢止されなかつたが、漸く翌春フロレンツに移住することが許された。私は彼處に多數の學生及び友人を有し、シーナでは國家に危険なるものとして内閣から出入を禁ぜられて居つたのであるが、こゝでは自由に古文書文庫に於て研究することも出來た。その上にこの市は私の昔から好きな技術的寶物を非常に豊富に有つて居つた。只まだ名義上は幽閉であつたが、遂には之も全然廢止された。

私の最初の考は當然ドイツへ歸ることであつた。然し今冬に近く、特に私の財産の所有を復する試が考へられたので、イタリアに居ることが必要であつた。私の年金は月五百十七リールであるので、私と私の娘とが生活するには足りた。多數の好意ある上院及び下院の議員等——其人には最有名人々があつた——の斡旋で、私の家の収入が返還されることになり、私すら其内に居住し、其書物を利用するを得るに至つた。實際は書物の入れてあつた二つの室だけが自由であり、他は總て借つけられてあつたが、私にそこに入つた。今は少くとも更に研究し、また自分の食卓で食することが出來た。二年後有名な上院、下院の議員及び文部大臣アニレの助力によりて、完全に返還を得た。

今私のローマに於ける大學教授を復することが必要であつた。之は勿論其間に他人に占められたのである。教授

會は一致してギリシャ史の新しい教授を置くことに決したが、之は私に渡さるべき爲であつた。然し新大學令によつて正教授の任命は紀元一九二四―二五年の間に行はるべき規定であつたので、其間教授會の提議により時の文部大臣ジェンチレから紀元一九二二―二四年の教授が囑托され、紀元一九二四年十二月一日に正教授に任命された。

私がこの年正しく努力したものは只科學であつた。現にデモクリットは「教育は成功するものには飾となるも、失敗するものには遁口上となる」といふてゐる。私は時を費す爲に、シーナでアテネの財政を書いた。ベツクの財政學は彼の時代には實に賞讃すべき事業であつたが、一世紀後の今は大部分古くなつたので、之を書くことは私の長い間の目的であつた。私は多分この書を完成し得まいが、少くとも私の生活の最困難な時代を想起させるこの原稿を尊重させるを得ない。其後ローマに於て再びギリシャ史の新版の事業にかゝつたが、第三卷（もとの第二卷）の各部が紀元一九二二年と同一九二三年に現れ、第四卷（もとの第三卷）が今印刷中である。（筆者云、第四卷の一部は紀元一九二五年に出て、第二部は紀元一九二七年に公にされた）私が大戰時代に初めた古代ローマ史の研究が、其間に偶然一書となつたが、其原稿は今完了したから、多分本年（紀元一九二五年）には公にせられたと思ふ。（筆者云、之は紀元一九二六年に出版された）

今私は私の生活を回顧して見ると、實に不斷の戦闘であり、總ての種類、の偏見に對し、言語學的狹量及び魯鈍なる出典信仰に對して戰つた。私は實に「ゼウスが親及び苦戰をすべき老年に與へられし如き」ものに屬せねばならない。而して之は神ですらも無益に戰ふたものである。

而してこの際私は只自己の力に頼つた。私がイタリアに來た時には私は彼處に只一人も知つたものはなかつた。

がは自分で自分の位置を作つた。而して私は私の仕事が専ら向けられてゐる範圍については全く師を有しない。之が私の經歷の初に私を失錯に至らしめたもので、かゝることがなかつたなら私は外的にはもつと多くを爲し得たに相違ない。實に私がドイツの故郷を離れて働かねばならなかつたことは最不幸であつた。不在者は常に不正者ある。かくて私には男子に取つて最高なるもの、政治生活への關與が拒まれた。幸に私はアルプの彼方に非常に多數の眞實な友人を得たが、曾て私の若かつた時の總ては私を去り、私の家は便りなく立つてゐる。「私は人生の難破船を漕いでゐる。然かも尙ほ嘗てはしなやかな四肢にあつた力を有つてゐる」

而して私の日常の仕事はまだ十分でなく、私は再び歸へらぬ國へ行く前に、完成したいと思ふものがまだ澤山ある。第一に私の歐洲人口史に關する作、ギリシャ史もハンニバルからスルラに至る時代の歴史が、未だ到底書かれないから、その終卷を缺いて居る。モムゼンのやつたものは漫畫に外ならないものである。私が之を爲し得ないうちに運命の女神アトロ波斯は多分私の生命の糸を切つて終ふだらう。殊に私はドイツが再び古代の盛觀に歸るまでは目を閉ぢたくない。然し若し之が私に許されないならば、私と共に必らず私の民族は鐵を生ぜしめた神は奴隸を生ぜしむるを欲しなかつたことを思ひ想すに相違ないと確信してゐる。